

第10回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

人參湯他

診方 § 四 診

峯 尚志

今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○四逆湯

●人参湯、桂枝人参湯

○人参去朮加桂湯

○理中加附子湯

○乾姜附子湯

○六君子湯

まずは生薬乾姜から

今回の主役は乾姜です

生姜の種類

生姜 なまのひねショウガ

1

辛温 gingerol多し

吐き気やムカムカを治す

胃腸の働きを助け、食欲を増し、痰飲を除く

発散解熱、鎮吐、鎮痙、抗潰瘍作用

乾姜 加熱処理し蒸したショウガ

3

辛大熱 shogaol多し

胃気を鼓舞する

裏寒を去り、脾胃の陽を温め、冷えや痛み

また寒による喘咳にもちいる

shogaolに顕著な鎮咳作用

腸管内輸送促進、利胆、血圧降下、強心、抗炎症作用

2 干姜 自然乾燥したショウガ

生姜は消化を助け嘔に効く乾姜の効果は？

乾姜は お腹を温めて 弱った胃気を鼓舞し さらに 肺の冷えを解き 腎陽までをも鼓舞する 圧倒的なパンチ力がある

まずはエキス剤にはない甘草乾姜湯の方意から学びます

甘草で乾姜の辛みを和して胃粘膜の炎症を和し粘膜を守りつつ胃気を鼓舞する

甘草乾姜湯

肺痿、涎沫（よだれやつば）を吐して咳せざる者 其人渴せず 必ず遺尿し 小便が数（頻回）に出る者は 上焦が虚して下焦を制することができない。これを肺中冷という。

必ず眩（めまい）し、涎唾（よだれや唾液）が多いものは、甘草乾姜湯で之れを温める。
もし湯液を飲んで口渇する者は消渇に属す

すなわち肺の陽虚証で肺が冷えて薄い唾液が出て、尿の色が薄く頻回に出る者。
肺痿の病とは肺が虚し長期にわたり咳嗽・呼吸困難・粘稠あるいは稀薄な痰がみられる病証。

喘咳を治す処方の中にも甘草乾姜湯が仕込まれている

小青竜湯

麻黄、半夏、甘草、乾姜、細辛、五味子、大棗

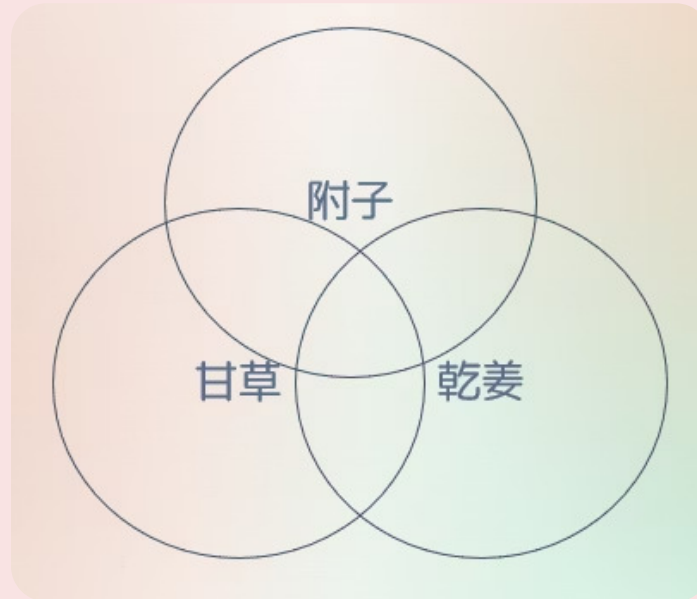
苓甘姜味辛夏仁湯

茯苓、甘草、乾姜、五味子、細辛、半夏、杏仁

甘草乾姜湯に次に加える生薬は

附子

甘草乾姜湯に回陽救逆の附子を加えて四逆湯となる



命を奪う毒をもって起死回生の生薬とする

附子について

- 基原：キンポウゲ科のカラトリカブトの子根
- 性味：大辛、大熱、有毒
- 帰経：十二経

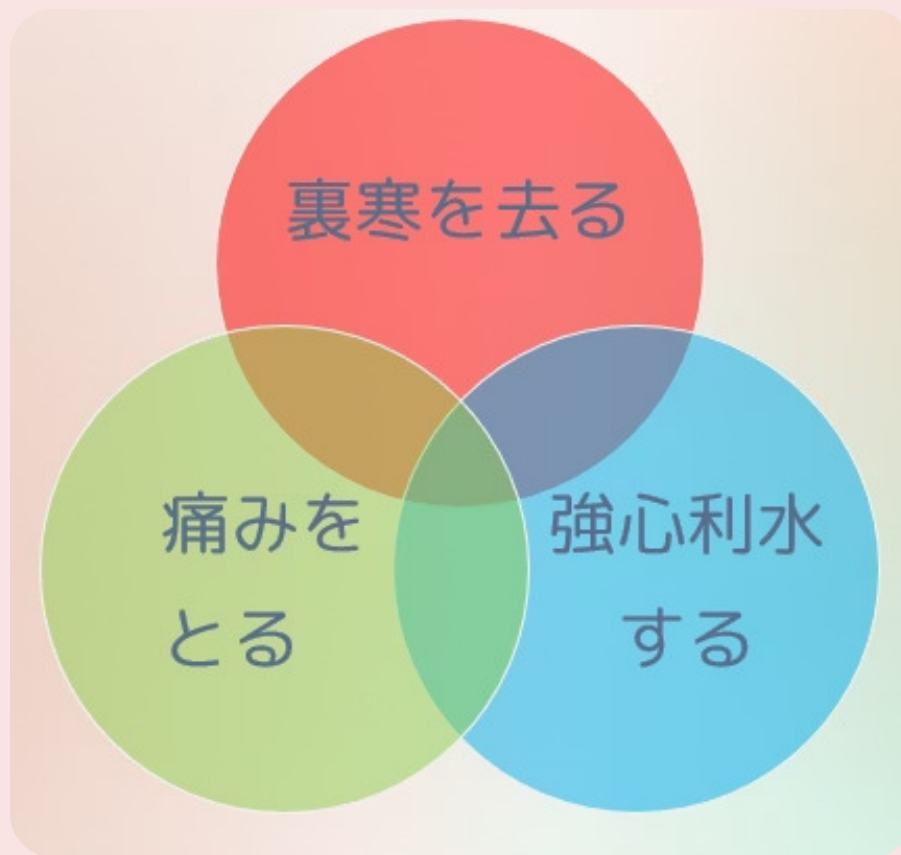
回陽救逆 陽気衰微の脱汗、激しい下痢、嘔吐による亡陽虚脱による顔面蒼白、チアノーゼ、四肢の冷え、脈微弱

補陽益火 腎陽虚の腰膝だるく無力、四肢の冷え、寒がり、性機能減退、遺精、頻尿

温陽利水 腎陽虚による腰以下の浮腫、腰痛、尿量少

散寒止痛 風寒湿痺の疼痛、しびれ、冷え

附子の3大目標



四逆湯

心、脾、腎の陽気が衰微した陰寒独盛の重症

1

1. 陽虚、陰寒内盛

脈は弱く

手足が冷え切って、寒がって、縮こまって寝ている

元気がなくてうとうとしている

不消化の下痢をする

2

亡陽虚脱

ショック状態となり、冷汗が止まらない、脈が微弱で絶えそうになる

○四逆湯の腹証

腹満して軟

これを按ずるに力なく

腹体、或いは心下に応うるの毒なく

また肌膚は潤いなく甲錯して俗に言う鮫肌の如く

手足逆冷、或いは厥冷し、且つ腹底冷え

あるいは臍下関元の辺不仁にして

腹底に力なし

また曰く、腹底攣急あるいは下利清穀

或いは小便不利するもの

図ノゴトク、腹満シテ濡コレヲ按スルニチカラナ



四逆湯は陰病の三病期全体に用いることができる

1 太陰病

腹が冷え、下痢して、口渇のないもの

2 少陰病

元氣なくただ寝ていたい。脈は微細。

食べると吐きあるいは
吐きたいけどはけないもの

3 厥陰病

脱汗しても熱が下がらず、四肢が冷え痛み、下利清穀するもの。

四逆湯の症例報告より

1 四逆湯

冷えと生理不順

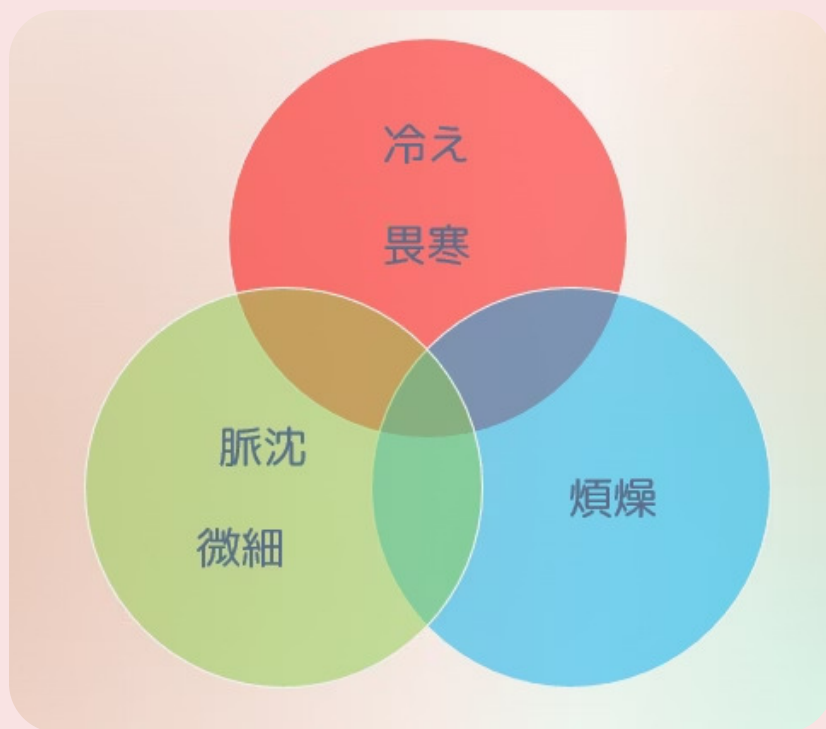
2 茯苓四逆湯

慢性頭痛

交通事故後遺症の頭痛、めまいなど自立神経症状

肺がん末期 冷え、倦怠

逆湯の目標



倦怠感

寒気

呼吸苦

痛み

めまい

頭痛

次は甘草乾姜湯に人参を加える

人参

ウコギ科の御種人参の根

性味：甘、微苦、微温

帰経：肺、胃

補気固脱 ショック状態の時、大量の人参を煎じて飲ませる

補脾気 脾気虚で元気ない、疲れやすい、四肢無力、軟便

益肺気 肺気虚で息切れ、咳嗽、自汗

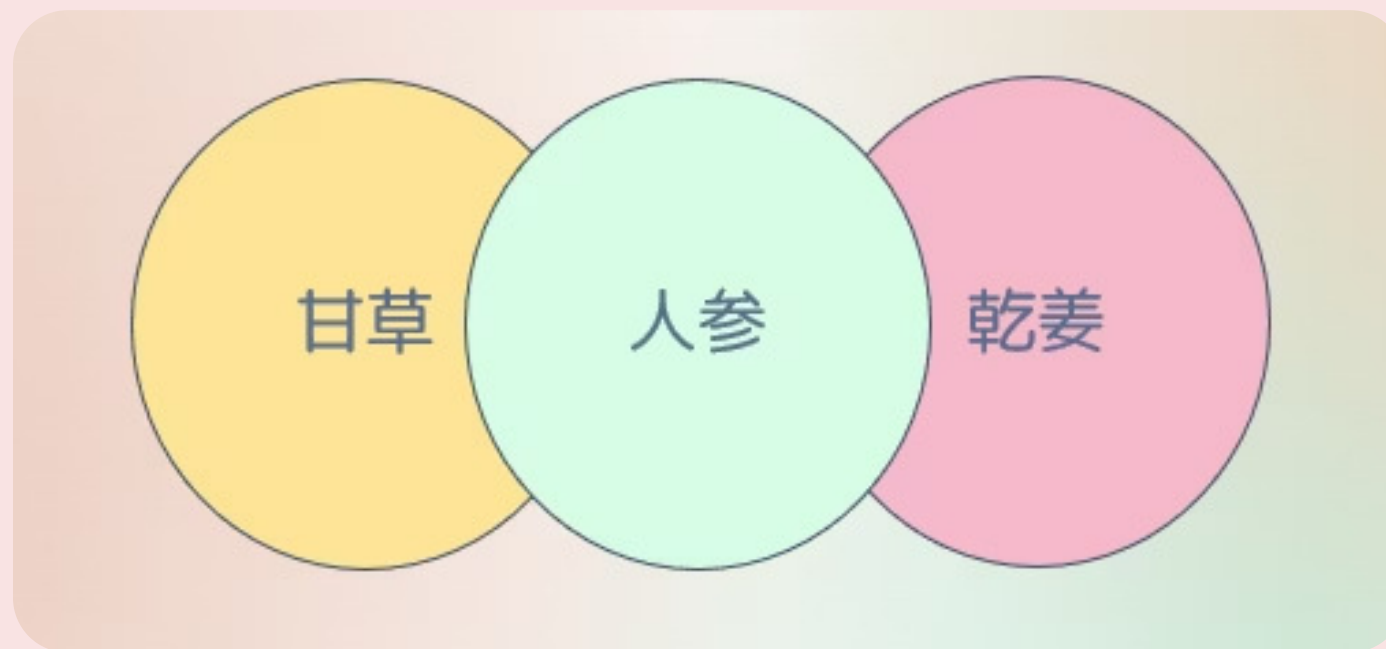
生津止渴 熱病の気津両傷で口渇、多汗、脈大無力

安神益智 気血不足の心神不安、不眠、動悸、健忘

しかし意外にも人參は胃にもたれる

人參による胃もたれを
乾姜の辛温で散じ
甘草の守胃作用で緩和する

甘草乾姜があることで人参の作用を生かすことができる



しかし、甘草も人参も水（津液）を増やすから体に水がたまってどんよりする胃腸によい生薬でもう少し脾気を高め水をさばく生薬をいれたい

そこで白朮を加味する

キク科のオケラの根

性味：甘、苦、温

帰経：脾胃

健脾益気 脾の運化を助け食欲不振、腹満、だるさ、軟便を治す

燥湿利水 脾虚水滯によるむくみ、だるさ、小便不利を治す

固表止汗 表虚の自汗を治す

安胎

というわけで

人參湯の完成



人參湯 脾胃の裏寒を治す

中焦虚寒

食欲不振、口渇なし、泥状便、腹の鈍痛
温めると楽になる、腹も手足も冷える
舌は淡白で胖大、苔は白滑、脈沈遅で無力

寒邪直中

冷えによって腹痛が続く
陽虚不摂血による鼻出血、血便、不正出血
顔色が白い、息切れ、元気がない、脈が細い、虚大無力

●人参湯の腹証

図の如く、胸中痞（ふさ）ぎ、
心下を按ずるに硬く
胸腹もしくは腰脚冷え、
小便しげく、大便くだり
あるいは常にぶ漉（やわらかに下る）し
或いは心腹痛み
或いは胸痺し
或いはこのんで唾をはき
胸中、心下、ころよからざるもの
人参湯の証なり

薄い泡みtainな唾液がたくさん出る



人参湯の2つの腹証

裏寒があると胸からみぞおちにかけてベニア板のように痞えて硬くなる場合がある
一方軟らかく無力で振水音のある場合もある

人参湯証

裏寒があると胸からみぞおちにかけてベニア板のように痞えて硬くなる場合がある
一方軟らかく無力で振水音のある場合もある

裏寒とは胃腸虚弱で舌は湿潤して苔なく、尿は希薄で量が多く、
手足は冷えやすい、また薄い唾液が溜まり、大便は軟らかく下痢しやすい、
嘔吐、めまい、頭重、胃痛を訴えることもある。脈は沈、弱。
または遅のことが多い。血色すぐれず顔に生氣がない。

裏寒による心下痞硬のイメージ

脾陽が虚しているので栄養がいきわたらない
(飢餓、栄養失調)



胸痛に人参湯

胸痺の病、心中痞、留気結して胸にあり、胸満し、脇下逆して心をつく、枳実薤白桂枝湯之れを主る。人参湯また之れを主る。

（金匱要略 胸痺心痛短気病脉証治篇）

症例 75歳女性 胸痺の病

主訴) 発作性胸痛 痩せ型で神経質な女性

2年前よりしばしば胸痛発作あり、循環器内科受診するも、狭心症の所見なく、心因性といわれ放置さる。
甘麦大棗湯の頓用は効果有り

脈は沈細、舌は小さく紅色、白苔少量、腹部は胸肋角狭く
心下部はベニア板のように硬く緊張している。

食欲なく、大便やや軟。

疲れやすく手足冷える。

以上の所見より人參湯を処方したところ食欲が出て元気になり一ヶ月たったくらいから胸痛発作がおきなくなった。

人參湯の舌所見について

- 裏寒、脾の陽虚証を受けて、舌は淡紅色で胖大で薄い滑苔を呈することが多いです。
- しかし、先ほどの胸痛の症例のように高齢の人參湯証の場合、紅色で締まった舌を呈する場合があります。
- これは、脾虚による栄養不足が続いて、津液が虚しているためと思われます。人參湯の人參と甘草は津液を生む作用があり、脾の運化を助けると同時に陰液を補う作用も発揮すると考えています。

裏寒が腎に及んで腎陽が虚すると胸苦しだけでなく動悸する例も出てくる

そこで人参、甘草、乾姜に桂枝をたす

○人参去朮加桂湯

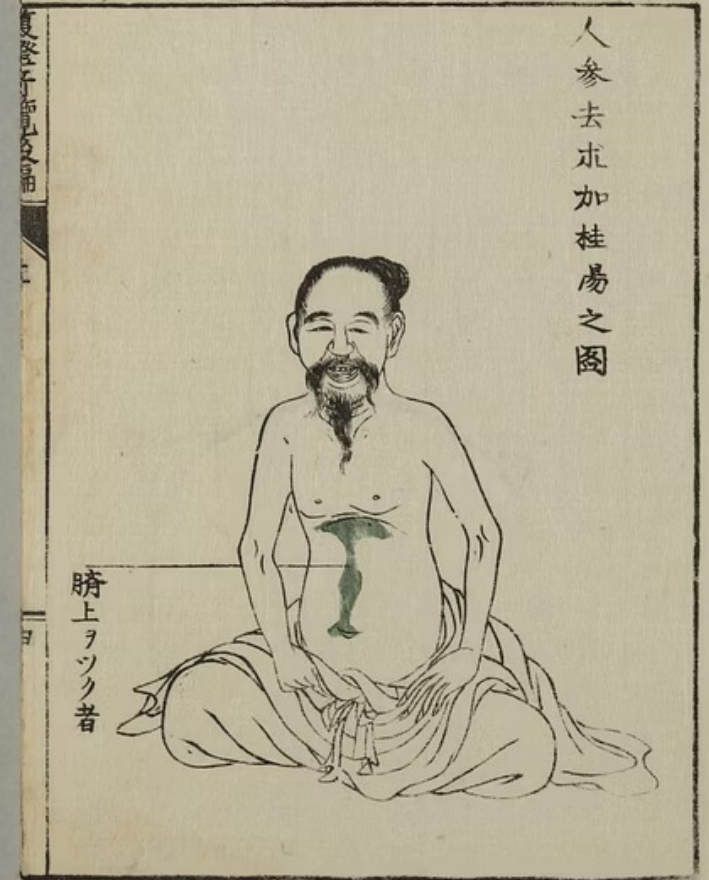
人参、甘草、乾姜、桂枝

末にして蜜丸、鶏子黄の大きさの如く
熱湯6分をもって突き砕き温服す
ひるま三たび、夜二たび

桂枝甘草湯の方意も加わる

人參去朮加桂湯の腹証

図の如く、本動悸腹底にあり
時々臍上を衝くもの、
これ腎氣動するなり
心下痞鞭、胸中痺（なえ）、
或いは胸郭の痞塞
或いは心を衝くもの
奔豚気に似たり
皆血証にして腎間の氣動くなり



素直に

人参湯に桂皮をたすと

エキス剤にもある

桂枝人参湯となる

桂枝、人参、甘草、乾姜、白朮

桂枝人参湯の目標は協熱下利、心下痞鞭

叔虎の解説では心下痞鞭が表裏ともにありということと動悸が強いとあるのみ

本来は人参湯証の患者さんが感冒性胃腸炎にかかり下痢するときの処方

目標は協熱下痢

人参湯証で気の上衝をともなうものにひろく用いられる



峯口訣

- 私は人參湯よりも桂枝人參湯を好んで使う
- 人參湯エキスは甘草が3gあり、朮だけでは利水の力が弱く連用すると甘草含有処方の中でむくみをきたしやすい処方である。桂枝には温陽利水作用もあり桂枝を加えることでむくみの副作用が軽減する。
- 脾胃が弱いと同時に、気の巡りが悪い例が多く、桂枝を加えることで脾気を全体に巡らせる。
- 桂枝は人參湯によって回復した脾気の昇陽作用を助けて頭痛や動悸を治したり、気の巡りをよくして自律神経の調和をはかる処方として用いている

6歳 男子 115cm、21kg

- 生後より食が細く、慢性的な冷えと下痢を常に訴える。皮膚は乾燥し、アトピー性皮膚炎と言われている。
- 便は軟便でべちゃっとしている
- 舌はやや赤く薄透明の滑苔が少量。胸肋各狭く腹部は腹力虚で虚満。
- 以上の所見より、桂枝人参湯3.5g分2で処方。この処方で食欲改善し、便も形のある普通便となり冷えも改善し、皮膚のかゆみも軽減し、皮膚所見改善している。



ところで裏寒が亢じると脾陽だけでなく腎陽も虚して脾腎陽虚となる
そこで人参湯に附子を加える

○理中加附子湯

人参、甘草、乾姜、朮、附子

附子理中湯はエキスがあります

附子理中湯の腹証

図の如く、心下痞硬、小便不利、
胸中痺あるいは、急痛急迫上衝して
手足厥冷、悪寒のもの
また言う、心腹絞痛、嘔吐して下痢
あるいは煩熱悪寒、或いは噎逆のもの
この方に効あり
余、此の方
身体厥冷、大便自利の者に、数々用いて効を奏す
諸君子、用いて以て妙効を知るべし。

文礼は桂枝人參湯加附子を附子理中湯を呼んだらしい



理中加附子湯之図

心下痞硬



乾姜附子湯

乾姜、附子

乾姜附子湯：脾腎陽虚の極証

煩燥し食せず

その状何ともすべからきもの

自ら患うところを知らず

一身ことごとく寒え、

昼夜氣急促迫、

その余腹診伝あり

甚だしき者はおよそ死証なり

傷寒論に曰く

「之れを下すも後また汗を發す（脱汗）

昼日は煩燥し眠ることを得ず

夜にして安静なり

嘔せず、渴せず、表証なく

脈は沈微、身に大熱なきもの」と



文礼の腹証の中でもっとも弱った病人さんの姿
危篤の証
下痢、煩燥して厥するもの

大熱の乾姜と生附子だけで腹から全身の陽気を鼓舞する
頓用の処方

附子（生を用いて皮を去って八つに切る）

乾姜の話はここまで
最後に人參剤でもっともエビデンス豊富な

六君子湯

人參、甘草、白朮、茯苓、陳皮、半夏、生姜、大棗

六君子湯

脾気虚＋痰飲を治す

胃腸が弱く、食欲がなく

みぞおちが痞え

疲れやすく

貧血性で、手足が冷えやすい人の諸症

胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、機能性胃腸症

食欲不振、胃痛、嘔吐、下痢

六君子湯

栄養不足傾向の小児か？

図の如く、中脘より上に腹力ありて
下脘力なし、
苓姜朮甘湯の腹証に似たり
臍下脱して力なく小便不利
或いは氣急促迫、その人氣短く
或いはことに触れて驚く
或いは歩行してよく倒る
最も小児にこの証多し
世に痞証と号するものこの証まあり。
その余、それぞれの病、その憂を問わず
この腹に合するものは、
六君子湯を用いて治せざるものなし
学ぶ者、用いて以て効を知るべし
舌胖大が目標（織部先生）

六君子湯之証



六君子湯のエビデンス

- 食道運動機能改善作用
- 食道酸クリアランス改善作用
- 胃排出能改善作用
- 胃適応性弛緩改善作用
- 胃内容積減少抑制作用
- グレリン分泌促進作用
- 食道粘膜バリア改善作用
- 胃粘膜血流改善作用
- ストレス性消化管機能障害改善作用

グレリンとは

- 主として胃内分泌細胞で産生されるペプチドホルモン
- 成長ホルモン分泌促進作用、摂食亢進作用、消化管運動亢進作用
- 呼吸機能改善作用、心機能改善作用、エネルギー代謝調節作用

Gastroenterologyに記載された論文

- 六君子湯はシスプラチンによって誘導されたラットの食慾不振モデルに対して改善効果をしめす。
- 六君子湯のフラボノイド成分がセロトニン2受容体（5-HT₂）拮抗作用を改正して、食欲亢進ホルモンの分泌抑制を阻害し、血中のグレリン濃度低下が改善され、食欲不振に対して効果を現す

六君子湯の食欲改善、体重増加作用

- グレリン分泌促進作用
- グレリン代謝酵素阻害作用
- グレリン抵抗性改善作用六君子湯はグレリンシグナルを刺激して、老化促進マウスの寿命を延長させる。併せて長寿遺伝子（サーチュイン1）の活性化も求める
- 胃全摘例において食欲抑制ホルモンのGLP-1の血中濃度低下作用および体重増加作用
- 胃切除後の逆流性食道炎に対する作用
- 経口鉄剤不応の貧血の改善効果
- 癌患者の食欲増進。

まとめ

- 今回は甘草乾姜の組み合わせを持つ処方について学んだ
- 甘草乾姜湯は裏寒と言われる胃腸の冷えを改善する働きがある。
- 裏寒があると、身体の水はけが悪くなり、薄い唾液や痰が出たり、胃の痞えや、食欲不振、下痢や軟便を来す。
- 厥陰病の代表処方である四逆湯も甘草乾姜に附子を加えた処方で裏寒を治し、心陽を鼓舞し身体全体を強く温める作用がある。
- 人參湯は甘草乾姜に人參、白朮を加えた処方であり、お腹を温め、食欲を増す力のある処方である。
- 更に桂枝を加えたり、附子を加える加味方についても説明した。
- 最後に食欲を増し、気力を増し、脾胃を活性化する六君子湯について、エビデンスも加えて紹介した。